

美術

と

映像



松本俊夫《銀輪》(1956年 / 12分 / カラー / サウンド)

戦前から戦後へ
東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品による上映会

2011.3.26 **Sat** - 3.27 **Sun**

国立国際美術館 B1 階講堂 入場無料 / 全席自由 / 先着 130 名 (午前 10 時より整理券を配布)

PROGRAM - プログラム - ※ A プログラム冒頭に担当者による解説を行います (20 分程度)

3月26日(土)	13:00 - A プロ ※ / 15:00 - B プロ	3月27日(日)	13:00 - B プロ / 15:00 - A プロ ※
----------	-------------------------------	----------	-------------------------------

主催：国立国際美術館、東京国立近代美術館フィルムセンター 協力：川崎市市民ミュージアム 協賛：(財)ダイキン工業現代美術振興財団
〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-55 <お問い合わせ> 06-6447-4680 (代表) <URL> <http://www.nmao.go.jp>
◇ 地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」(3 番出口)より西へ徒歩約 10 分 ◇ 京阪電車中之島線「渡辺橋駅」(2 番出口)より南西へ徒歩約 5 分



美術と映像

戦前から戦後へ

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品による上映会

2011.3.26 Sat - 3.27 Sun

国立国際美術館 B1 階講堂

入場無料/全席自由/先着 130名
(午前 10 時より整理券を配布)

プログラム

PROGRAM

「中之島映像劇場」の第1回では、東京国立近代美術館フィルムセンターとの共催で同センター所蔵の作品を上映します。趣旨は「美術と映像」の発端を再考することです。具体的には戦前ヨーロッパのいわゆる前衛映画と、戦後日本における「美術と映像」の接点に登場した先駆的な仕事の紹介となっています。普段簡単には見ることの出来ない「古典的名作」を35mmフィルム上映による画面でお楽しみ下さい。

Aプログラム - 映画の再発見:戦前ヨーロッパにおける前衛映画(1時間8分) *冒頭に20分程度の解説が付きま

- フェルナン・レジェ(1881~1955年)《パレエ・メカニック》(1924年/16分/白黒/サイレント)
Fernand Léger, *Ballet mécanique*
- ルネ・クレール(1898~1981年)《幕間》(1924年/19分/白黒/サイレント)
René Clair, *Entr'acte*
- アンリ・ショメット(1896~1941年)《純粹映画の五分間》(1926年/5分/白黒/サイレント)
Henri Chomette, *Cinq minutes de cinéma pur*
- ジェルメーン・デュラク(1882~1942年)《貝殻と僧侶》(1927年/20分/白黒/サイレント)
Germaine Dulac, *La coquille et le clergyman*
- オスカー・フィッシング(1900~67年)《習作7(ハンガリアン・ダンス五番)》(1931年/3分/白黒/サウンド)
Oskar Fischinger, *Studie Nr. 7 (Ungarischer Tanz Nr. 5 von Brahms)*
- オスカー・フィッシング《習作8(魔術師の弟子[デュカス])》(1931年/5分/白黒/サウンド)
Oskar Fischinger, *Studie Nr. 8 (L'apprenti sorcier von P. Ducas)*

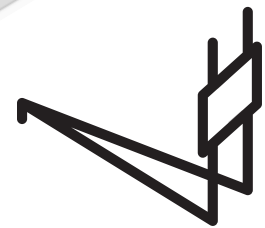
Bプログラム - 美術と映像:戦後日本における胎動(1時間40分)

- 勅使河原宏(1927~2001年)《北齋》(1953年/14分/白黒/サウンド)
Teshigahara Hiroshi, *Hokusai*
- 勅使河原宏《動く彫刻 ジャン・ティンゲリー》(1963年撮影/1981年再編集/23分/白黒/サウンド)
Teshigahara Hiroshi, *Sculpture mouvante - Jean Tinguely*
- 羽仁進(1928年~)《絵を描く子どもたち 一兒童画を理解するために》(1956年/38分/白黒・パートカラー/サウンド)
Hani Susumu, *Children Who Draw Picture*
- 松本俊夫(1932年~)《銀輪》[デジタル復元/三色分解アナログ合成版](1956年/12分/カラー/サウンド)
Matsumoto Toshio, *Bicycle in Dream*
- 松本俊夫《白い長い線の記録》(1960年/13分/カラー/サウンド/フィルム提供:川崎市市民ミュージアム)
Matsumoto Toshio, *A Record of Long White Lines*

上映作品

主な上映作品の見所

(変更する場合もあります/特記以外は全て東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵/サイレント作品の上映時間については一部不確定なものが、暫定的な数字を入れています)



中之島映像劇場

中之島映像劇場が始まります!!

国立国際美術館では万博記念公園時代から映像作品の収集に取り組み、常設展示会場で上映を行ってきました。近年、中之島に移転してから実験映画やビデオアートの上映会を開催してきました。主なものに、ジョナス・メカス《リトアニアへの旅の追憶》(2006年7月)、アメリカ実験映画(マヤ・デレン、マイケル・スノウ、ほか/2009年12月)、「ヴァイタル・シグナル 日米初期ビデオアート上映会」(2010年9月)などがあります。

また、2008年4月~6月には「液晶絵画 Still/Motion」展を開催し、絵画と映像とが交錯し合う現代の美術表現に光を当てました。

これまでの実績を継承しつつ、新たに「中之島映像劇場」という名称でさらなる展開を図ろうと考えます。メディアに立脚した、言葉の最も広い意味での「美術と映像」の歴史的な変遷を探り、現代の状況の解明を試み、さらには今後の動向をも予示出来ればと願っています。

画家のフェルナン・レジェ制作の《パレエ・メカニック》からは1920年代、美術家たちが映画を新しい表現手段として捉えた切りローシナリオの否定、速度とリズムの強調、日常の事物の大写しを通してその造形的美を発揮させる、などが鮮明に伝わってきます。

マルセル・デュシャン、マン・レイ、エリック・サティたちの姿を目の当たりに出来るのが、フランス・ピカビアの脚本によりルネ・クレールが演出した滑稽な追跡劇、《幕間》のもう一つの面白さです。

オスカー・フィッシングの《習作7》と《習作8》は非具象の形態が音楽と同調しながら運動し変化する抽象映画です。世界的な人気を博し、戦前の日本でも上映されました。

廃物利用の奇妙な動く彫刻を作るジャン・ティンゲリーが日本に滞在して作品を制作し、個展を開く過程を記録した勅使河原宏の《動く彫刻 ジャン・ティンゲリー》では、ティンゲリーの姿が見られるだけでなく、当時の画廊とオーナー、評論家や作家たちが登場します。日本の現代美術界発祥期の記述として興味を惹かれます。

記録映画の秀作、羽仁進の《絵を描く子どもたち 一兒童画を理解するために》は、カメラの存在を忘れさせることで子どもたちを生きたまま捉えた点が見事です。

最近プリントが再発見され、2010年にデジタル復元された松本俊夫の《銀輪》には、「実験工房」の北代省三や山口勝弘が協力し、音楽は武満徹と鈴木博義。さらにあの円谷英二も特殊撮影に参加しています。

● 展覧会情報: 本上映会時には以下の展覧会を開催中です。

「風穴 もうひとつのコンセプチュアリズム、アジアから」
2011年3月8日(火)~6月5日(日)

「コレクション4 特集展示 早川良雄ポスター展」
2011年3月5日(土)~6月5日(日)

国立国際美術館
THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-55 TEL 06-6447-4680(代表)

◇ 地下鉄四つ橋線「肥後橋駅」(3番出口)より西へ徒歩約10分 ◇ 京阪電中之島線「渡辺橋駅」(2番出口)より南西へ徒歩約5分

